

おさんぽとやま便り

◎ 富山県庁周辺エリアが抱える課題

現状の富山県庁周辺エリアが抱える課題を、大きく「観光資源」、「街の回遊性」、「人の交流」の観点から以下の表にまとめる。

観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 潤沢にある自然資源を十分に活用できていない。 ・ 富山駅周辺や商店街地区と比較して経済活動が消極的である。 ・ 富山県庁の駐車場が多い。
街の回遊性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山駅前から富山県庁、そして商店街地区への人流が乏しい。 ・ 県庁周辺エリアが休日の来訪目的となることが少なく、富山駅から商店街地区への人の流れを断絶してしまっている。 ・ 松川沿いの照明が少ない。
人の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日の来街目的となることが少ない。 ・ まちづくりプレイヤーが乏しい。 ・ 人の交流が生まれるような場所が少ない。

これらの課題を解決し、本エリアがより豊かに彩られるために、3つのアイデアを提案する。

■ 提案① 富山くすりアミューズメントパーク ～美術館・博物館で街を繋ぐ～

商店街地区にあたる総曲輪には富山市ガラス美術館がある。富山県庁周辺エリアに「富山くすりアミューズメントパーク」を設置し、美術館と博物館による連携や企画運営などにより、富山県庁から商店街地区の人の往來を促し、富山駅への人流の増加も狙う。

【設置場所】

- ・ 旧NHK富山放送会館跡地(下図の  で示した部分)



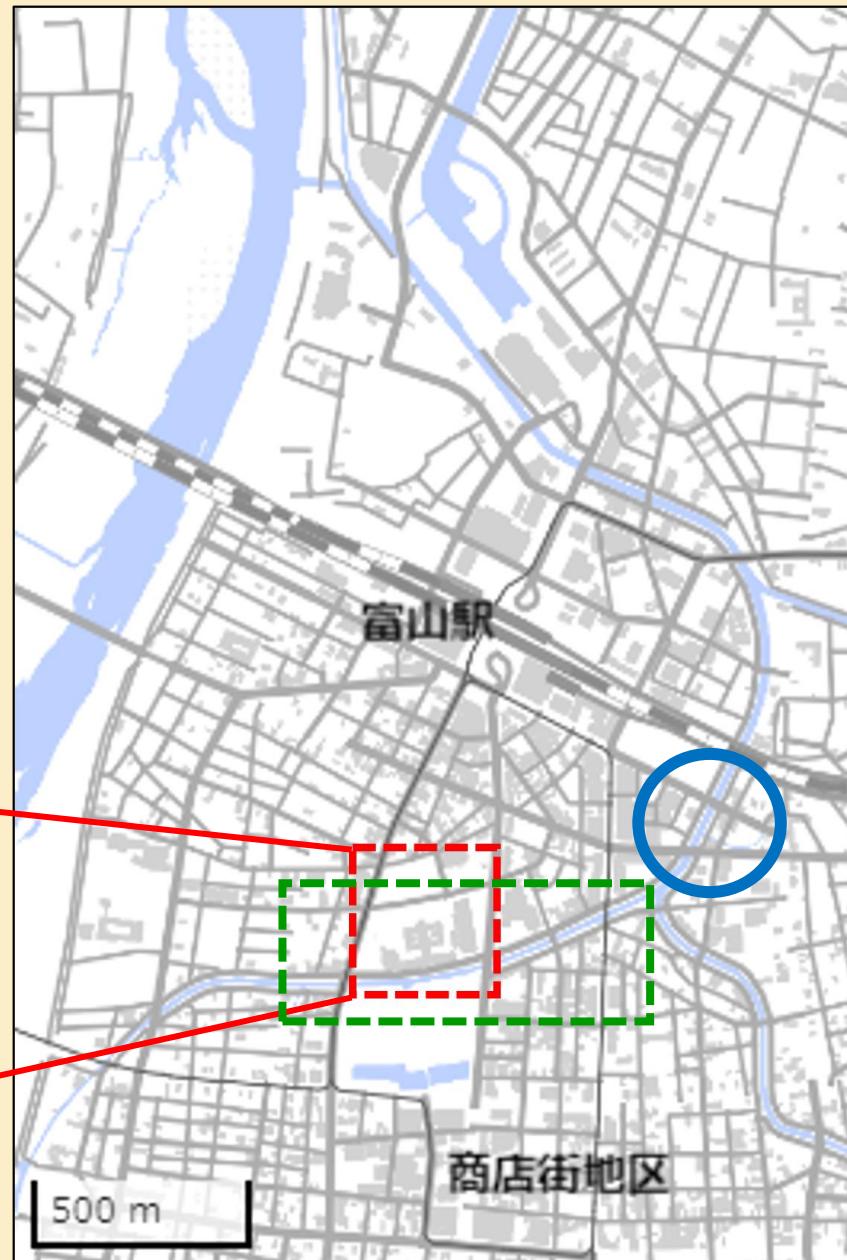
【期待される効果】

- ・ 県庁周辺エリアと商店街地区の連続性の増強
- ・ 富山駅～富山県庁周辺～商店街地区の人流の増加
- ・ 富山県庁周辺の休日の来街者の増加
- ・ 県内の大学や地域の化粧品メーカーなどとの産学官民連携

■ 提案② 富山県庁・公園リニューアル ～暖かな空間への再構築～

長い歴史を誇る富山県庁では、表彰や記者会見の場に用いられる特別室や、県職員が業務を行うための執務室、会議室などが設けられている。令和4年に県庁舎本館南側に防災危機管理センターが建造されて以降、一部部署が富山県庁舎から移転し、県庁舎本館には空室となっている部屋がある。この空室を活かした県庁舎改革を提案する。

富山県庁敷地では、施設以外の大部分が駐車場として利用されている。この駐車場の一部を他施設に改造し、県庁職員や街に住む人々のウェルビーイングが向上されるような改革を提案する。



(地理院地図Vector〈国土地理院〉を加工して作成)

県庁前公園は、県庁や市役所の公共施設等が集積するオフィス街に位置し、人々の憩いと語らいの場として親しまれている。しかし、公園が大通りに面していないことや、視認性が悪いことなどから閉鎖的に感じられてしまう。

この閉鎖的な雰囲気を解消すべく、県庁前公園のビジュアルを改善し、オフィスワーカーをはじめ地域の住民が公園に行こうと思えるような空間を創造することを目指す。

【期待される効果】

- ・ 県庁前公園の休日利用者の増加
- ・ 県庁前公園のネガティブな雰囲気の解消
- ・ 富山県庁周辺エリアに住む住民・オフィスワーカーのウェルビーイングの向上
- ・ 人々の交流の場としての場所となること

■ 提案③ 松川を渡る船 ～のんびり渡る富山～

松川とは、神通川の旧河道で富山城跡、県庁などのある市街地の中心を流れる河川である。春から秋にかけては松川遊覧船が運航しており、特に春には桜並木の中で花見を楽しむことができる。松川遊覧船は桜橋～舟橋(地図の  で示した部分)を巡回する。この航路を富山駅の方(地図の  で示した部分)へ延長し、県内外、国内外の観光客の松川遊覧船の利用増加を狙う。

【期待される効果】

- ・ 水辺資源の活用促進
- ・ グリーンインフラの整備
- ・ 観光客の増加
- ・ 松川遊覧船の利用増加

■ 提案① 富山くすりアミューズメントパーク ～美術館・博物館で街を繋ぐ～

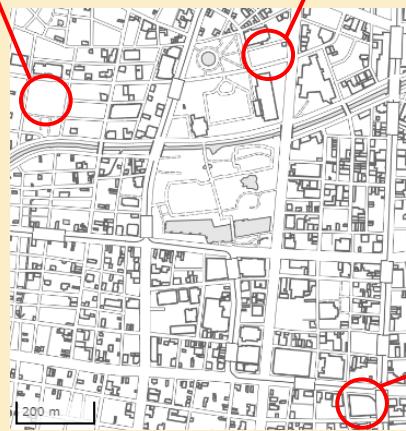
・ 富山県庁周辺にある美術館・博物館



高志の国文学館



設置場所(旧NHK富山放送会館跡地)



(地理院地図Vector〈国土地理院〉を加工して作成)

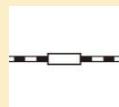


富山市ガラス美術館

富山県庁周辺には富山市ガラス美術館や高志の国文学館などの美術館や博物館が存在する。

☆ 美術館と博物館の共同企画による来街者歩行型イベントの開催

富山駅から商店街地区までの中間地点に存在する富山県庁周辺エリアは、経済活動や来訪目的となるスポットに乏しいために、どうしても人の流れを断絶してしまうエリアとなっている。人の流れが断絶される要因の1つには、各エリアの施設と施設の間移動距離が長いことが考えられる。「富山くすりアミューズメントパーク」、「高志の国文学館」、「富山市ガラス美術館」の3施設による来街者歩行型イベントを企画・開催し、富山県庁周辺エリア～商店街地区の街を歩く機会を作るとともに、それに伴う富山駅～富山県庁周辺エリアの人流も促す。



富山駅



800 m



富山くすりアミューズメントパーク



900 m



富山市ガラス美術館(商店街地区)



高志の国文学館



700 m



富山くすりアミューズメントパーク



900 m



富山市ガラス美術館

富山駅と商店街地区の中間地点に「富山くすりアミューズメントパーク」を設置することで、移動距離の短い街を目指す。

☆ 県内の大学や地域の化粧品メーカーなどとの産学官民連携

文学、芸術、薬学...「高志の国文学館」や「富山ガラス美術館」に代表されるように、富山と文学・芸術は密接な関係を持っている。当然ながら、「くすりの富山」として知られている通り、富山県と医薬品産業の関係と歴史も深い。「富山くすりアミューズメントパーク」を設置することで富山の誇る文化・産業に対して研究機関や企業などの多様なプレイヤーが発展に携わり、また、県内外の観光客や地元の住人に富山県の特徴を知ってもらう場とし、富山県庁周辺エリアが富山市の発信力と賑わいの象徴となることを目指す。

富山県には、富山の文化や芸術、医薬品産業に関係の深い機関が数多く存在する。

(例)



富山大学芸術文化学部

(<https://www.tad.u-toyama.ac.jp/about/access>)



富山大学薬学部

(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/campuslife/campus/>)



富山県発コスメブランド LA LA HONEY

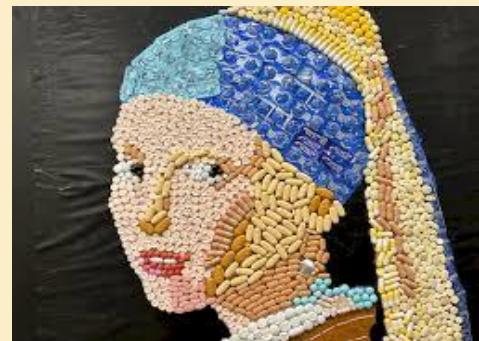
(<https://lalahoney.jp/>)

例に挙げたような大学や企業などが「富山くすりアミューズメントパーク」と連携して事業に取り組む場合、以下のような事業が考えられる。

① 芸術分野

・ 「残薬アート展」

残薬とは、病院から処方された薬で、飲み忘れや飲み残しなどの事情により余ってしまった薬のことである。残薬を材料に用いて芸術に昇華したものを「残薬アート」と呼ぶ。残薬アートを通して芸術と医薬品産業の存在を示すとともに、体験型のワークショップの開催も行い、来館者が富山県の薬や芸術文化について理解を深める機会を設ける。



残薬アート

(<https://www.fukuoka-u.ac.jp/fukudaism/education/24/03/19151.html>)

② 医薬品産業分野

・ 「くすり展示館」

現在広く普及している医薬品や、過去に用いられていた和漢薬などの歴史に関する資料を展示する。また、化粧品の歴史や資料についても示し、富山県とくすりの関わりのあゆみを紹介する。

・ 「パーソナルカラー診断コーナー」

パーソナルカラーとは、その人の肌や髪の毛などの身体的特徴やその人自身の雰囲気と調和する色のことである。そこで、厳密にパーソナルカラー診断を行うために専門の診断所を設ける。受診者が診断を受けた後、その人に似合う化粧品を紹介したり、化粧品を買い求めたりすることができる場を提供する。



パーソナルカラー見本

■ 提案② 富山県庁・公園リニューアル ～暖かな空間への再構築～

☆ 公園内の木の形にこだわる

富山県庁及び県庁前公園を暖かみのある空間にするにあたり、まず公園内に植林されている木の形態に注目した。公園に植えられている木には、主に以下に示す形状のものが混在しているように見受けられる。



尖頭形の木



柱状形の木



杯形の木

(出典：小学館
日本大百科全書
(ニッポニカ))

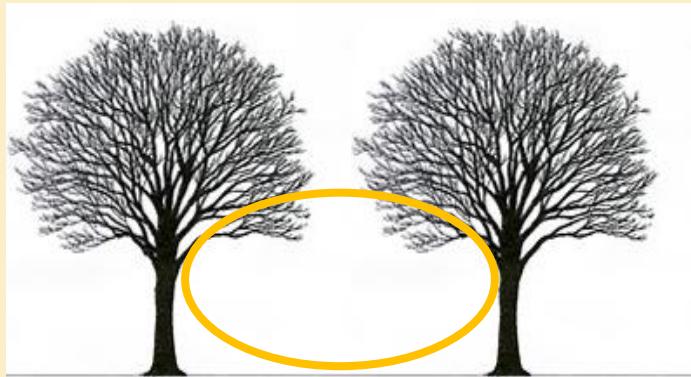


県庁前公園(噴水前)



県庁前公園(芝生広場)

尖頭形の木や柱状形の木は形が直線状であり、エリアの象徴としては有用であるが、公園内に空間を作るような効果は薄いと考えられる。現在の県庁前公園は敷地の外郭を直線状の木で覆っている部分が多く、通りと公園の間に壁が隔てられているような印象を受ける。公園内に暖かみを与え、人々がとどまりやすい「たまり場」としての空間を創造するには、直線状の木を植えるのは公園の入り口付近までにとどめ、園内全体を囲む木は杯形の木のような放射状に育つ木を植え、ドームを作る要領で公園全体を包むことが必要であると考えられる。



杯形樹を県庁前公園の外郭に植え、上図に示すような空間を生み出し、県庁前公園が人々の交流の場としての役割を果たすことを目指す。

☆ 富山県庁及び敷地を利用したウェルビーイング改革

富山県庁周辺エリアはオフィスワーカーが多い。その一方で、オフィスワーカーに向けた支援施設やリフレッシュできるような場所は少ない。そこで、富山県庁及び敷地を舞台に2つの改革を提案する。

1つは、子育て世代の職員に向けた労働環境向上の一端として、県庁舎本館の空室を利用した子育て世代職員専用のコワーキングスペースを設置することである。職員が家族と過ごす時間を増やし、仕事とプライベートを充実させることを目指す。また、このコワーキングスペースを利用して、定期的に子育てに関するイベントを開催することで、富山県庁周辺エリアの住民が富山県庁へ足を運ぶように働きかけ、同時に歴史ある富山県庁について知ってもらう機会を設けることを狙う。

もう1つは、富山県庁の職員が、仕事の合間に運動できるように、富山県庁の北東側にある駐車場を運動場に変えようとする。富山県庁の前には県庁前公園があるが、球技やランニングなど、汗をかくような運動を行う場所には適さない。県庁敷地を用いてそのような運動ができる場所を作ることによって、職員に適度な運動を促し、心身健康である状態であるように働きかける。

以上の2つの改革を通して、県庁職員や富山県庁周辺エリアを訪れた人々のウェルビーイングが向上することを旨とする。



富山県庁敷地北東側駐車場

富山県庁の北東側に隣接する富山県民会館の駐車場を開放し、普段北東側の駐車場を利用する職員は県民会館の駐車場を利用するように呼びかける。

■ 提案③ 松川を渡る船 ～のんびり渡る富山～

現在、桜橋～舟橋を巡回運行している松川遊覧船を、さらに航路を富山駅側に延長し千歳橋付近から搭乗できるようにする。富山駅側への航路延長により、県内外、国内外からの観光客の利用増加を狙う。

松川の川沿いは照明が無い通りも多く、松川沿いが暗く人通りが少ないという課題もある。松川の照明を整備し、船でも歩きでも、快適に散歩ができるような街を目指す。



松川遊覧船

(<https://matsukawa-cruise.jp/about/boat/>)



桜橋付近の松川の様子、川沿いに照明が少ない。